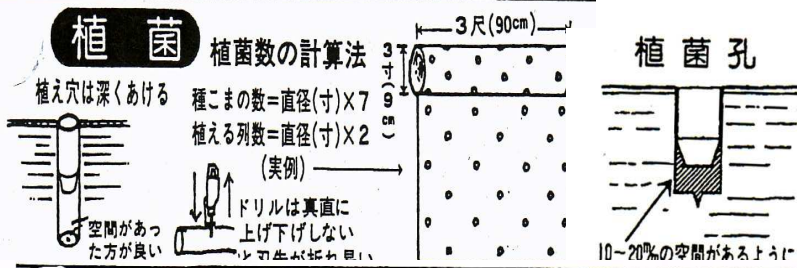


●野菜の作業

種まき・植え付け	栽培管理のポイント
<p>播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・チンゲンサイ ・ニラ（株分けも） ・サヤエンドウ ・パセリ ・セルリー ・キャベツ、レタス ・ニンジン ・露地用果菜類、シソ等 <p>植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレイショ ・ウド、ミョウガ 	<p>●販売用果菜類の育苗</p> <p>ささが「あさつゆ」の苗は違うね！！といわれるような苗を育てて販売しましょう。土を節約して小鉢に鉢上げした場合、土の量が少ないので肥料切れを起こしやすく、また外気温の影響を受け地温が低く根の動きが悪くなりますので、少なくとも3.5号以上の鉢でしっかりとした苗に仕上げましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・培土の必要量の目安(1ポリポット当り:容器に満たした場合) 3号(9cm)270cc 3.5号(10.5cm)640cc 4号(12cm)880cc ・培養土の詰め方 <div style="text-align: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ポットへの土詰めは、軽く2~3回地面に落として締まる程度(8分目)になるように土詰めを行う。 ・ポリ鉢に育苗培土を8~9分目入れ、ポット底から水がでるまで灌水をする。 ・ポリフィルムでポット全体を覆い移植2~3日前まで水分調整と地温の上昇を行う。 ・苗の鉢上げの際には、茎を直接握らず、子葉を持って移植しましょう。 ・子葉が出るように移植し、苗が落ち着くように軽く灌水をする。 <div style="text-align: right;"> </div>

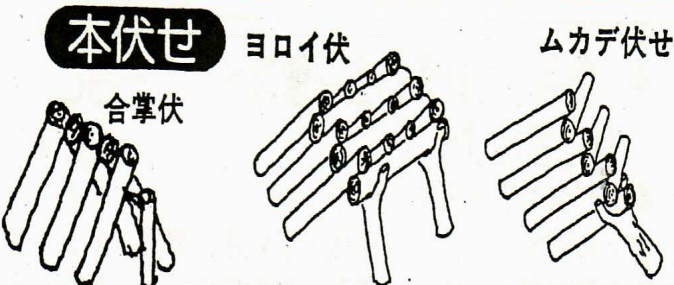
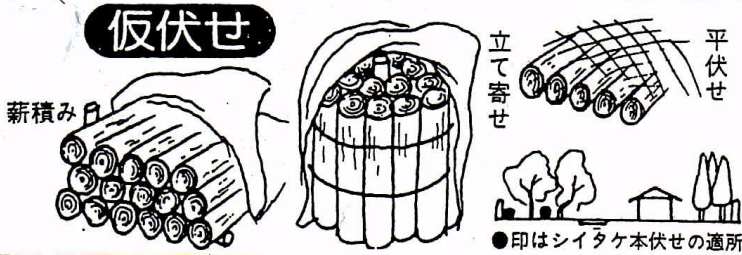
●しいたけの栽培

・自家用の場合原木はコナラが向いているようです。シイタケ菌は生木には繁殖できないので植菌前2~3ヶ月に切り倒しておき、1~2ヵ月後に玉切りします。植菌(コマ打ち)はお彼岸から桜の咲く頃がよいとされています。



植菌数の計算は左図のとおり。植穴の深さは種こまの先に1cm~3cm(太いほど多く)の空間が出来る深さにあける。種こまの直径と同じ径のドリルの刃先をつかう。

種コマの菌が早く原木に侵入できるよう、日向
囲って初めの10日から15日間は毎日水をかけ、
5月初めまで囲っておく。但し、4月下旬に植菌した場
合は仮伏せをせず、すぐに本伏せするが、この場合
低く伏せる。



5月~9月は菌類にとって最も活動する時期で、この時期
に雑菌がつかないようにしいたけ菌をホダ木に繁殖させるた
め、木陰や塀の北側などに左図のように伏せる。条件とし
ては、風通しの良いこと、水はけの良いこと直射日光は当
たらないうるむいところを選ぶ。

質問コーナー 農薬の種類とどのように作用するかを教えてください。
(今号は殺菌剤についてお知らせします)



農業豆知識

殺菌剤の種類と特徴

分類	予防・治療効果	代表的な薬剤(商品名)	特徴
銅剤	予防効果	無機銅剤:ポルドー液、銅剤、有機銅剤:キノドー	銅イオンが強い殺菌効果をもち残効性は長い。各種糸状菌病のほか、細菌病にも有効で適用範囲が広い。耐性菌が出現しにくい。
有機硫黄剤	予防効果	ビスダイセン、ジマンダイセン、コロナ、サルファー	保護殺菌剤。各種糸状菌病に有効で適用範囲が広い。耐性菌が出現しにくい。浸透移行性がないため予防散布が効果的である。
有機塩素剤	予防効果	オーソサイド、ダコニール	保護殺菌剤。各種糸状菌病に有効で適用範囲が広い。耐性菌が出現しにくい。浸透移行性がないため予防散布が効果的である。
有機リン剤	治療効果あり	リゾレックス、アリエッティ	リゾクトニア菌の病気に特有の効果をもつ。浸透移行性があり予防効果と治療効果を持つ。
ベンゾイミダゾール剤	治療効果あり	トップジンM、ベンレート	幅広い病原糸状菌に効果がある。予防効果と治療効果を有する。
EBI剤	治療効果あり	アンビル、トリフミン、サブロール、スコア、パイレトン、バイコラルール、ラリー	胞子の発芽管や菌糸の伸長を阻害する。うどんこ病やさび病に効果が高く、浸透移行性と治療効果を有する。
ジカルボキシイミド剤	治療効果あり	ロブラール、スミレックス	灰色かび病や菌核病の防除剤。ロブラールは浸透移行性がなく予防的に使用する。スミレックスは予防効果と治療効果を有する。
ジエトフェンカルブ系	治療効果あり	ゲッター、スミブレンドの1成分	ベンゾイミダゾール系薬剤に耐性の灰色かび病菌に有効。トップジンMが入っているので作用性の異なる薬剤と組み合わせる。
酸アミド剤	治療効果あり	リドミル、バンタック、モンカット	ピシウム菌、べと病、疫病など鞭毛菌類に起因する病害に選択的な効果を示す。浸透移行性があり予防的、治療的に使用できる。
メトキシアクリレート系	治療効果あり	アミスター20、ストロビー	ある種のきのこが生産する抗かび性抗生物質から開発された。浸透移行性があり予防的、治療的に使用できる。
アニリノピリミジン	予防効果	フルピカ	灰色かび病やうどんこ病に有効。
ジメトモルフ系	治療効果あり	フェスティバル	疫病、べと病に特異的に効果を示す。治療効果もあるが、予防効果が高い。他剤の耐性菌に対しても有効。
オキシリニック酸	治療効果あり	スターナ	軟腐病、腐敗病など細菌性の病害に対して効果がある。
抗生物質	治療効果あり	アグリマイシン、ポリオキシンAL	放線菌から抽出された農薬。浸透移行性を有し、予防効果と治療効果を持つが、一般に選択性は強い。
微生物農薬	予防効果	セル苗元気、バイオキーパー、バイオトラスト、バクテローズ、ポトキラー	病原性のない細菌や糸状菌で植物体を被い、病原菌の侵入をふせぐもので、病原菌が付着した後では効果が期待できないので、予防剤として使用する。

保護殺菌剤は予防的に使用することで効果があがる。浸透性で治療効果の高い薬剤は耐性菌の出現の可能性が高いので連用をしない。

※農薬の使用基準を守り、防除日誌の記帳は必ず行ってください!!!

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力: 上小農業改良普及センター
地域生活係 櫻井普及員 (Tel.25-7156)